

2020 . 6. 19. No.386

おきがくろうニュース  
沖縄学校事務労働組合



自らの要求は自らの手で！

カンパ送付先

郵便振替 02090-0-2239

沖縄学校事務労働組合

okigakuro2017@gmail.com

## コロナ禍で見えた日本の教育

(この記事は、5月に記載したもので、発行日の現状と異なることをご了承ください。)

さて、日本はもとより世界で新型コロナウイルス (COVID-19) が猛威をふるう中、学校事務職員の皆様は、いかがお過ごしでしょうか。ただでさえ忙しい3月、4月がコロナの影響により忙しさに拍車がかかった方もいらっしゃると思います。特に離島への異動職員、へき地勤務職員は行動を制限され精神的な負担も大きかったと心情お察しいたします。通常なら、楽しみにされていたであろう5月のGWも例年とは全く違った“ヤグマイ”の大型連休になってしまい、緊急事態宣言が解除され、やっと一息つけている頃でしょうか。

### ※教育現場では※

振り返ると、2020年2月27日夕刻から、ドタバタ劇は始まった。「臨時休校」要請→強制ではない→学校再開！？二転三転する政府発表と教育委員会に振り回されて、現場は大混乱極まりなかった。石垣市では、市長が「県をまたいで通勤等がないから安全だ。」と、メディアに大々的にアピール。多くの観光客が石垣島を訪れ、プチバブル状態になったらしいが、人とともにウイルスも島に入ってきてしまった。また、4月の学校スタートを多くの市町村が見送る中、感染者数が多いにも関わらず那覇市では、「教科書を配る大切な時間」と始業式と入学式は挙行すると発表した。那覇市内の多くの学校では始業式や入学式の参列を「コロナの感染が心配なので欠席」との連絡があったかと思えます。私の勤める学校でも始業式・入学式の欠席児童がクラスに1,2人いました。

また、福岡等の感染地域からの転入者は入学式の出席停止要請が市教委から出され、入学式は1年生が1割近く欠席の事態に！？感染地域の転入者児童・保護者からは、「入学式に出たい」との声が聞かれ、コロナが心配で参列を見合わせる児童と参列したくても出席できない児童と、どちらも不憫に思えた。入学式前日の夕方に市教委より「感染地域からの児童の入学式参列を認める」と連絡があったが、結果として、入学式は延期となった。

コロナの感染防止のため、県は職員に対して在宅勤務を推奨した。私の勤務する那覇市でも教育委員会が在宅勤務の案内を学校に出すも、【留意点】として、「学校の県費事務及び市費事務につきましては、日常業務(就学援助の申請受付業務等)に支障のない範囲内(必ずどちらか一人が出勤する等)での対応をよろしく願います。」と一文がメールに付け加えられていた。那覇市内の学校では、市費事務は、4時間もしくは5時間勤務である。有事の時ですら、就学援助の受付に県費事務は出勤しろと思っているのなら、平時の時は、休めなくなる。実際、私自身、那覇市に異動してきて、有給を取得しようとする、「就学援助の申請者が来たらどうするの？帰すの？」と本務の用務員に言われた。県費事務は、休むなってことか。就学援助の申請書類の受け取りは、管理職や日直の職員でも十分に対応可能だ。話しを戻すと、感染症対策のために在宅勤務を推奨されるが、管理職も出勤し、日直も出勤し、児童受け入れ職員も出勤し、来るか分からない就学援助の受付のために県費事務も出勤する。感染症対策が本末転倒だ。

### ※今後の日本の未来※

この未曾有の国難に対して、政府は場当たりの対応を連発し、日本中を不安と恐怖におとしいれた。一人ひとりや各事業所が自らの判断で行うはずの自粛を、なぜか政府が要請するという「外出・営業自粛要請」を行った。また、お肉券やお魚券で二転三転した政策は、野党や連立与党の後押しでようやく一律 1 人 10 万円の「特別定額給付金」になり、その給付が単発で終わるのか、複数回給付がありうるのか不透明なままだ。きわめつきは、日本のみならず世界中のメディアから失笑を買った「アベノマスク」の全世帯各 2 枚配布。しかも、多くの国民の手元に届いたのは、緊急事態宣言解除後である。これら政府の無策・無能ぶりを今度は「新しい生活様式」と言葉巧みに欺いている。コロナの一連の対応で見てきたのは、行政の要請（お願い）は強制なのか。ということだ。パチンコ店には執拗に「休業要請」を行い。

（パチンコ店が三密なら学校はもっと三密だ）そもそも、補償も十分でないのであれば、そこまで強くは言えないにも関わらず、店名公表に至っている。「お願い」＝「強制」のロジックは、まるで学校みたいだ。例えば、PTA 活動だって、「お願い」である。にも関わらず、「参加者が少ない」とか不満の声が聞こえる。「任意」と「依頼者の責任を伴った強制」を混同している。話が少しそれるが、かつての「ゆとり教育」は、政権、資本家、権力者に従順な労働者の育成と、それと別ルートの指揮命令する立場に立つ者を育成するルートに分けるための「選民教育」として始めている。「ゆとり教育」は、ある意味失敗に終わったが、日本の軍隊的教育や「忖度する子どもの育成」は 現在も続いており、日本人は、政府や目上の人の命令を絶対とする従順的な国民となっている。

今後、コロナが収束しても国民性として同調圧力がより強く残らないか非常に危惧せずにはいられない。

憲法の基本的人権のひとつとして、「子どもたちの学ぶ権利」がある。

今回のコロナの影響で、オンライン授業を始めとするネット環境の重要性が明確となったが、各家庭の経済的環境的な格差が児童への教育格差へと直結していた。政府は何でも「自己責任」と目を背けるのではなく、最低限の教育の保障として、子どもたちの住む場所にそれぞれが自由にいつでも使える無料のネット環境を税金で整え、法の下での平等の確保を行ってほしいと強く願う。

### ※事務職員の皆さんへ※

学校再開後の授業時数確保のために、多くの学校で夏休みの短縮が行われ、また、東村の小中学校では土曜日の半日授業が行われている。果たしてこの現状は、将来を担う子どもたちに胸を張れる職場でしょうか。多くの企業では、コロナを機に働き方が見直されている。ましてや、サービス残業なんてありえません。土曜日や夏休みが削られ、有給取得もままならない状況は、明らかにおかしい。有事の時だからこそ、行事等の精選を行い、時間を最大限に活用し、休む時は休む！！その姿が、将来を担う子どもたちの見本になるのではないのでしょうか。

沖学労は、事務職員の皆さんの働きやすい職場環境づくりに向けて、当局（県庁人事課）と交渉しております。職場で、理不尽な思いをしていませんか。

～～ あなたの声をお聞かせください。 ～～

「機関紙 JIMUJIMU」送付資金のための、ボーナスカンパをお願いします。

振込先は、一枚目上段記載。

カンパを頂いた方には、毎月の JIMUJIMU を職場へ送付致します。

(^▽^)

